

H22年6月14日

薬剤部長
薬局長 殿

山梨県病院薬剤師会
会長 金丸 良雄

調査依頼について

平素より、山梨県病院薬剤師会の運営にご高配を賜りお礼申し上げます。

さて、日本病院薬剤師会より別紙のとおり「平成24年度診療報酬改定要望項目の募集」
および「チーム医療における薬剤師の業務調査」に関する協力依頼がきております。

山梨県病院薬剤師会でとりまとめ送付しますので、それぞれにご回答のうえ、平成22年
6月25日（金）までに県立中央病院薬剤部にご提出をお願いします。

大変ご多忙中とは存じますが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日病薬発第22-172号
平成22年6月10日

都道府県病院薬剤師会長 殿

社団法人 日本病院薬剤師会
会 長 堀 内 龍 也
社 会 保 険 部 会
部 長 鈴 木 洋 史

平成24年度診療報酬改定要望項目の募集について（ご依頼）

平素より社団法人日本病院薬剤師会の運営にご高配を賜り御礼申し上げます。

さて、平成22年度の診療報酬改定におきましては、「栄養サポートチーム加算」、「感染防止対策加算」、「無菌製剤処理料の増点」、「薬剤管理指導料医薬品安全性情報管理体制加算の新設」「退院時薬剤情報管理指導料の新設」「後発医薬品使用体制加算の新設」など、病院診療所勤務薬剤師に高い評価が示されました。

本会は、診療報酬に関する活動を一層充実させるため、社会保険部会では、次期診療報酬改定に向けた検討を開始しております。

当面の検討課題は、①平成22年診療報酬が改定された項目の実態把握、②病院薬剤師の病棟配置の評価について、③平成22年改定積み残し項目の取扱い、④次期診療報酬改定の要望項目の選定並びにそれらのコスト計算および価値評価データ（エビデンス）の収集などです。

平成22年5月27日に開催された第2回社会保険部会で、次期診療報酬改定に関する要望項目及びエビデンスを都道府県病院薬剤師会からも募集し、社会保険部会で検討することになりました。

つきましては、別紙の回答用紙にて、平成22年6月30日（水）までに、本会事務局総務課宛にご回答下さいますようお願い申し上げます。

なお、参考資料を添付しておりますのでご参照下さい。

<照会・回答先>

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷2-12-15

日本薬学会長井記念館8階

社団法人 日本病院薬剤師会

事務局総務課

大森、安岡

電 話 03-3406-0485

E-mail somu@jshp.or.jp

別紙

平成24年度診療報酬改定要望項目の募集について

病院薬剤師会

回答者氏名

(連絡先) 電話番号

1. 要望項目名
2. 要望の概要とその理由
3. 要望項目の根拠となる価値評価データ（論文等の資料）具体的な資料をお示し下さい。

1. 要望項目名
2. 要望の概要とその理由
3. 要望項目の根拠となる価値評価データ（論文等の資料）具体的な資料をお示し下さい。

※1 用紙が不足する場合は、コピーしてご利用下さい。
ご協力ありがとうございました。

平成22年度診療報酬改定において 要望したが評価されなかった項目

1. 薬剤師を病棟に配置することに対する評価
2. 薬剤管理指導料「2」の対象患者の拡大
3. 精神科病院における特定入院料算定病棟での薬剤管理指導料の出来高への移行
4. 集団薬剤管理指導料の新設
5. 褥瘡患者管理加算に薬剤師の評価を追加
6. 特定生物由来製品管理加算の新設
7. 手術室等麻酔薬管理加算の新設
8. 院内感染防止対策の基準に「相当の経験を有する薬剤師」を追加
9. 特定薬剤治療管理料の回数制限の廃止
10. 特定薬剤治療管理料の対象薬剤の拡大
11. ニコチン依存症管理料の対象職種に薬剤師を追加
12. 退院時共同指導料の対象職種に薬剤師を追加
13. がん性疼痛緩和指導管理料の対象職種に薬剤師を追加
14. 薬剤情報提供料ハイリスク薬服用歴管理加算の新設
15. 特定入院料算定病棟から後期高齢者退院時薬剤情報提供料の出来高払いへの移行
16. 調剤料（麻薬、向精神薬、覚せい剤原料又は毒薬加算の増点）
17. 調剤料（注射薬調剤）
18. 調剤技術基本料（算定要件の緩和）
19. 調剤技術基本料（診療所における一回量包装調剤加算）
20. 調剤技術基本料（診療所における乳幼児加算）
21. 調剤技術基本料（注射薬調剤の評価）
22. 無菌製剤処理料2（対象患者の拡大）
23. 精神科専門療法（入院生活技能訓練療法の対象者に「相当の経験を有する薬剤師」を追加）

日病薬発第 22-171号

平成 22年 6月 10日

各都道府県病院薬剤師会

会長 殿

社団法人 日本病院薬剤師会

会長 堀内 龍也

同 薬剤業務委員会

委員長 松田 公子

「チーム医療における薬剤師の業務調査」に関する協力依頼について

平素より、日本病院薬剤師会の運営にご高配を賜り御礼申し上げます。

近年、医療者が取り組むべき重要項目として、「チーム医療」を挙げる事は異論のないことと思われまふ。中医協の附帯意見等に基づく次期診療報酬改定に向けた今後の検討課題に関する提案においても、「薬剤師の病棟配置の評価を含め、チーム医療に関する評価について、検討を行う」と明文化されており、日本病院薬剤師会堀内龍也会長も平成22年度の諮問事項や活動方針の中に、チーム医療の確立に向けた取り組みを盛り込んでおります。

こうした状況の中で、薬剤業務委員会では本年度の活動方針の一つとして、チーム医療としての薬剤師業務をより明確にする事を検討しております。委員会活動を遂行するにあたり、各都道府県病薬剤師会にご協力いただき、薬剤師がチーム医療に参画し、成果を挙げている発表、論文の先行事例を収集させていただきたいと思ひます。先行事例をより広い範囲から取り上げたいと考え、収集の対象を都道府県単位で開催している会員発表会（過去10年以内）も含めております。委員会では先行事例からモデル業務を提案させていただき、全国の会員施設へ啓発・普及することによって実施率を上げ、平成24年度診療報酬改定の要望項目につなげることも検討しております。

日々の業務のお忙しい中、大変恐縮ではありますむが、薬剤業務委員会の活動方針をご理解いただき、別紙の書式にて会員施設の発表・論文を都道府県病院薬剤師会できとりまとめいただき、平成22年7月5日(月)までに日本病院薬剤師会事務局宛にFaxまたはE-mail(somu@jshp.or.jp)にお送りくださいますようお願い申し上げます。

本調査に関して、ご協力・ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

<照会・回答先>

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15

日本薬学会会長井記念館8階

社団法人 日本病院薬剤師会 総務課

TEL 03-3406-0485 E-mail somu@jshp.or.jp

FAX 03-3797-5303

都道府県病院薬剤師会名

チーム医療における薬剤師の業務調査

直近 10 年間に於いて、薬剤師が病棟、ICU、外来（化学療法室）、手術室等において、医療安全の確保（副作用の予防や回避、インシデント数の減少など）、他職種との医療従事者の負担軽減、患者・家族満足度の向上、治療の向上、医療経済面等医療に貢献できたと思われる事例（会員発表がなされているか論文となっているもので、可能な限り数値評価したもの）があればご記入ください。又、発表については要旨のコピーや、既に公表された論文等については別刷もしくは原稿コピーを日病薬事務局まで送付（着払いにて）いただきますようお願い致します。

「チーム医療」の視点と考えられる発表

薬学的管理内容		発表概要		連絡先(可能な範囲でご記入ください)	
(例) 1 (例) 外来化学療法室に薬剤師 2 名が常駐し、患者への治療説明、服薬指導（お薬手帳に記入、配布）、副作用モニタリング、副作用対策、支持療法に関する処方提案を実施	発表演題名	外来がん化学療法における安全性ならびに診療効率の向上に向けた薬剤師の取り組み	施設名	〇〇病院	
	発表者名	病薬太郎、病薬花子、病薬次郎、etal	問い合わせ先となる担当者の氏名	病薬 太郎	
	学会名等	第 10 回日本クリニカルパス学会学術集会	問い合わせ先電話番号	〇〇-△△△△-〇〇〇〇	
	発表年月、開催地	2009 年 12 月 4-5 日, 岐阜			
	取り組みと成果の内容	薬剤師常駐前後 1 年間での業務実績、制吐率を比較した結果、患者数は 1.4 倍に増加（=>医師負担軽減による診療効率の向上）、乳癌患者での完全制吐率は 50%から 79%に有意（P<0.001）に向上（=>医療安全確保）、制吐対策費は 15%節減できた（医療経済への貢献）。			

2	発表演題名		施設名	
	発表者名		問い合わせ先となる 担当者名	
	学会名等		問い合わせ先 電話番号	
	発表年月, 開催地			
	取り組みと 成果の内容			
3	発表演題名		施設名	
	発表者名		問い合わせ先となる 担当者名	
	学会名等		問い合わせ先 電話番号	
	発表年月, 開催地			
	取り組みと 成果の内容			

「チーム医療」の視点と考えられる論文

投稿論文		論文概要	連絡先（可能な範囲でご記入ください）	
(例) 1	論文演題名	薬剤師の介入によるがん患者でのオピオイド鎮痛薬による副作用予防対策の推進と便秘および悪心・嘔吐の軽減	施設名	〇〇病院
	著者名	病薬太郎、病薬花子、病薬次郎、etc	問い合わせ先となる担当者の氏名	病薬 太郎
	学術雑誌名	Support Care Cancer	問い合わせ先電話番号	〇〇-△△△△-〇〇〇〇
	掲載巻, 号, 頁, 発行年	〇〇巻, 〇〇号, P〇〇~P〇〇, 2010年		
	得られた成果の概要	緩和ケアチーム（薬剤師含む）と病棟担当薬剤師の連携によりオピオイド鎮痛薬による副作用予防対策（制吐剤、緩下剤の予防投与）を推進（病棟カンファでの説明や処方箋での確認、疑義照会の徹底）した結果、便秘発現率は36%（83人中30人）から9%（107人中10人）に（ $P<0.001$ ）、嘔吐は16%（83人中13人）から4%（107人中4人）まで低下（ $P<0.001$ ）		
2	論文演題名		施設名	
	著者名		問い合わせ先となる担当者の氏名	
	学術雑誌名		問い合わせ先電話番号	
	掲載巻, 号, 頁, 発行年			
	得られた成果の概要			

※ 用紙が不足する場合は、コピーしてご記入ください。

※ 問い合わせ先につきましては、薬剤業務委員会よりお問い合わせさせていただく場合がございますのでご了承ください。